2018.11.22 タルゲン勉強会担当：小島　p．212～214

『菩薩地』には、五つの想いを生じさせて忍を修習することを、説かれています。すなわち、「害する者それに対して、1」愛おしいとの想いと、2）ただ法ほどに従うとの想いと、3）無常であるとの想いと、4）苦であるとの想いと、5）摂取する想いです。」と説かれています。

そのうち、第一〔愛おしいとの想い〕は、現在、害するこの有情は、昔の他の世々において〔私の〕父母、または兄弟姉妹、または規範師にならなかった者は無いし、彼らが私に益してくれたのは数えきれないので、現在このような害について私が仕返しすることは道理でない、といって、かわいそうだとの想いにより、忍受すべきです。

規範師⇒弟子の規範となって、その行為を正す師

⇒無縁の慈悲 有縁の慈悲は、「一切衆生はかつて私の両親だったことがあるのだ」と いう考え方を育むことで生じるものじゃ。自分が出逢う人すべてを家族だと捉えることで、そういう考え方に慣れてくる。たとえば、自分より 年上の人を自分の母親や父親だと捉え、自分より年下の人は自分の子どもだと捉え、自分と同い年の人は自分の兄弟だったり姉妹なんだと捉えること。一切衆生への慈愛に到達するまでこの考え方を育むことじゃ。（「日本ガルチェン協会 HP 資料「ガルチェンリンポチェ無縁の慈悲」より抜粋」

〔第二：〕ただ法ほどに従うとの想いは、この害するものは縁に依存するし、ただの想いほどは法ほどに尽きている。これに対して罵る、または殴るのと、あら探しするのと、叱責するのとの私や有情または命ある者や生きものは、何も無い、と思惟して、忍受するのです。

法⇒達磨・三宝の一つとしての法は仏によって説かれた教法

縁⇒すべてのものに因果の法則が支配しているのであるが、その果を生ずる因を助成する事情条件、すなわち間接的原因

何も無い？→何が無い？no self→自我・私欲が無いことか？

〔第三：〕無常であるとの想いは、有情は無常である、すなわち死ぬ法（性質）を有するものですが、〔数多くの害のなかでも〕最高の害は生命を離れたことです。そのようならば、※有情は自性により死ぬので、殺生する必要はないと思惟して、忍受するのです。

無常⇒生滅変化してうつりかわり、同じ状態に止まっていないこと。あらゆる存在が無常であることを諸行無常という

自性⇒そのものが本来備えている真の性質。本性。

※人間は必ず自然に死ぬものだから、他の者を殺すのは死体を殺すことである（第六章.20）「入菩薩行論」より抜粋

〔第四：〕苦であるとの想いは、一切有情は、〔すでに苦苦、壊苦、行苦という〕三つの苦により虐げられている。私はそれらの除去すべき苦を成就すべきでない、と思うのです。これこそが苦だとの想いにより、害を忍受するのです。

苦苦⇒肉体的感覚的の苦であり、打つ・切る・つねる・熱い・冷たいなどの痛撃による苦

壊苦⇒破壊損失などによって感ぜられる苦。貧乏をしたり、老衰したり、失望落胆したりする時に受ける精神的な苦

行苦⇒一切行苦・現象の法は苦である・仏教的な考えによれば、三界六道への輪廻転生の迷いの生活は要するに苦であり、迷いを離れ輪廻を脱した涅槃の状態のみが真の楽であるとされる（仏教要語の基礎知識より抜粋）

成就⇒物事を成し遂げること・達成すること

〔第五：〕摂取する想いは、私は正覚に発心したなら、「一切有情のために為そう」といって、一切有情を妻のあり方で摂取している。そのように摂取してから、雑多な害に対して仕返しすることは、道理でない、と思って忍受するのです。

摂取する⇒仏が慈悲の力によって衆生を受け入れて救うこと

正覚⇒無上正等覚の略・釈尊の覚りのこと

妻のあり方⇒？？？愛情をもって抱きしめる？⇒embracing⇒原文はどうなっているのでしょうか？

雑多⇒種々のものが入り混じっているさま・無秩序な

（ドルズィンリンボチェ：六波羅蜜のご法話逐語録より抜粋）この「耐怨害忍」は「因果の法」を本当に理解することによって得られます。「因果の法」を本当に信じていないと、このような「忍辱」を起こすのは難しいです。（中略）「自分が何かいいことをしたのに、相手が悪いことをしてきた」というのは、結局「業」によってです。「自分も以前同じ様なことを相手にしたから、こういうふうに悪いことが起こったんだ」と考えて、忍耐を修習する。そうすれば、今生でも執着が無くなっていきます。

（三十七の菩薩行より）
善の喜び望む菩薩らに　害する者は宝の蔵のよう　それゆえすべてに怨みの心なく　忍辱するのが仏子菩薩行（27）

【引用文献・参考文献・資料】

〇ドルズィンリンポチェ　六波羅蜜ご法話逐語録

〇日本ガルチェン協会 HP 資料

〇佛教後大辞典（東京書籍株式会社）中村元著

〇新・佛教語辞典（誠信書房）中村元監修

〇シャーンティデーヴァ入菩薩行論（チベット仏教普及協会）ゲシェー・ソナム・ギャルツェン・ゴンダ/西村香註/宮坂宥勝序

〇仏教要語の基礎知識（春秋社）水野弘元著

〇三省堂大辞典